

質問件名 子どもがのびのびと育つまち小平のために保育の質を地域全体でささえよう

【質問要旨】

小平市では、2010年から2018年の間に私立認可保育園を25園増やし、認定こども園など併せ、様々な保育サービスでニーズに対応しています。これは、言うまでもなく働き続ける女性が増えたことが背景で、保育所の数の充足は子どもたちの育ちを地域で担うための第一歩です。

小平市はもともと幼稚園が多く、いち早くアットホーム事業や預かり保育事業を行っていますが、子育て世代の働き方の変化で保育園志向が高まってきました。本来は子どもの育ちにとって大事なものは同じで、幼稚園と保育園、文部科学省と厚生労働省と所管官庁が分かれるのではなく一元化されるべきと考えていますが、日々成長していく子どもたちのために今は保育の質を保っていくのが地域の役割だと思っています。

保育は単に子どもを預けることでなく、保護者と保育園と一緒に子どもを育てていくことで子どもにとっての最善の利益が保障されなくてはなりません。その責任は親だけでなく社会全体にあり、家庭も含めた地域の中で子どもも親も育まれていくようなネットワークづくりをしていくことが行政の役割です。その意味で、保育園をつくることだけでなく、幼稚園に通う子や幼稚園・保育園に行っていない子も含め、市内全体で小平の子どもたちの育ちをどうしていくのかという姿勢が問われます。

子どもたちの豊かな育ちを地域で築くために以下の質問をします。

- ① 子育ての孤立化を防ぐための母親・父親の地域でのつながりづくりについて、妊娠中の保健事業のほか、協働や公民館事業など子ども家庭部以外の部署の役割をどう考えますか。
- ② 保育園と保護者のコミュニケーションや保育園の地域交流について、市としてどのようにサポートしていますか。
- ③ 保育園での給食食材の調達や食の安全について、市としてどのようにサポートしていますか。
- ④ 園外保育のお散歩で市立公園を使う保育園は多く、使いやすい公園整備や道路整備を子ども目線で行ってはどうかと考えますが見解は。
- ⑤ 使用済みおむつを保育園で処理できるよう処理費などの面でサポートするべきと考えますが見解は。
- ⑥ 長時間保育や病児保育への対応として、大人のニーズだけでなく子どもの育ちにとってという目線で働き方改革をすすめるべきと考えますが、市としてできることはなんでしょうか。
- ⑦ 保育士がゆとりをもって仕事ができるための指標のひとつとして人件費比率について、市としてチェックできないでしょうか。
- ⑧ 保育園同士の横のつながりのほか、公立保育園、子ども家庭支援センターとの連携、市の巡回指導の活用などをより充実させ、市内の保育園全体の質の底上げのため市としてさらにできることは何でしょうか。
- ⑨ 基幹園を中心とした公立保育園の運営のあり方について、単に保育所の配置の問題として捉えず、保育園、幼稚園、関係機関、子どもに関わる市民団体などもまじえ、子育てネットワークとして構築してはどうでしょうか。
- ⑩ 幼児教育の無償化は小平市の保育の質を上げることに役立ちますか。
- ⑪ 小平を子どもがのびのびと育つまちにするためには、市内全体でのトータルな取り組みが必要です。その根拠となる子ども総合計画や子どもの権利条例をつくることが有効と考えますが見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2019年2月14日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 日向 美砂子

受付番号【            】

26	25	24	23

— (            /            ) —